

文化・芸術

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

大川美術館のミュージアムカフェテラスに、赤い金属モビールが三つ。自然の風をうけて、上下左右にゆらゆらと揺れながら回転しています。場所によって、受ける風はさまざま。それぞれの作品が、毎回異なった軌道を描きます。一瞬通り抜けた風が、余韻を残して可視化される本作。動力は風ですが、そのなめらかな動きは無重力空間を思わせませぬ。絶妙なバランスで存在する「ただようかたち」は、雨の日は雨粒の重みで首を垂れており、その日のお天気によって全く違う表情をみせます。

森村均 (1956年)

「風の家」—ただようかたち2020

1994、2020年、アルミウム、鉄協力、IDE庭園清掃作家蔵(写真撮影:木宮伸也)



森村は桐生市生まれ。梅田での野外美術展「ドキュメント376」や「桐生市有鄰館芸術祭」「有鄰館アートビエンナーレ」などを企画、展示。2000年には、桐生市内に「Art Barn 森村美術研究所」を設立します。桐生市市民文化会館や桐生郵便局などでも森村の作品をみることもできます。(池田)

※企画展「桐生のアーティスト2020」は22日まで。出品作家は、石原彰一、金原寿浩、小林達也、小松原洋生、丸尾康弘、圓山和幸、森村均、山口晃、月曜休館。